

科目名	経営とデータサイエンス		
開講学期	1年次春学期		
教員氏名（カナ）	平井 友行（ヒライ ユウコウ）		
単位数	2		
授業実施方法	対面授業		
教育の実務経験の有無	会計専門職大学院にて事例研究等を担当「財務諸表分析」「経営戦略とコーポレートファイナンス」「ビジネスエコノミクス」について演習方式にて講義	ノートPCの利用	教員に指示されたときに持参すること
実務経験	事業会社において経営企画担当取締役及びCFO（経理財務担当取締役）の実務経験有り 日本証券アナリスト協会会員、国際公認投資アナリスト		
キーワード	経営管理、経営戦略論、組織論	アクティブラーニングの実施	無
授業の目的と概要	本講義の目的は、ディプロマポリシーにある「社会・産業・企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出す能力」を身に付けることである。経営学（経営管理論）は現在も変容を遂げており、様々な分類の方法があるが、学修上は大きく「経営戦略」と「経営組織」の二つに分けて考えるとより理解が進みやすいと考える。基本科目である本講義では、まずは、戦略論・組織論の基本的・伝統的な理論を体系的に学び、その上で、その上で事例を活用し、近時の産業・企業等がかかえる経営上の課題を具体的に理解する。特に、本研究科の中心的なテーマである「データサイエンスから導出される知見を活用して実践的で効果的な方策」を見出すような事例等も紹介することから、学生は是非とも、修士論文の題材選択の一助とされたい。また、本講義の後に、「経営戦略論」「組織行動論」等の価値創造科目を履修することで、より具体的にデータを活用して、経営上のあるいは社会的な課題を解決する能力を身に付けることが出来ることとなるであろう。		
到達目標	1	経営戦略論の基本的な考え方を体系的に説明することができる	
	A+	経営戦略論の基本的な考え方を体系的に説明することが完璧にできる	
	A	経営戦略論の基本的な考え方を体系的に説明することができる	
	B	経営戦略論の基本的な考え方を体系的に説明することがある程度はできる	
	C	経営戦略論の基本的な考え方を体系的に説明することが余りできない	
	F	経営戦略論の基本的な考え方を体系的に説明することが全くできない	
	2	経営組織論の基本的な考え方を体系的に説明することができる	
	A+	経営組織論の基本的な考え方を体系的に説明することが完璧にできる	
	A	経営組織論の基本的な考え方を体系的に説明することができる	
	B	経営組織論の基本的な考え方を体系的に説明することがある程度はできる	
	C	経営組織論の基本的な考え方を体系的に説明することが余りできない	
	F	経営組織論の基本的な考え方を体系的に説明することが全くできない	
	3	社会、産業、企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出すことができる	
	A+	社会、産業、企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出すことが完璧にできる	
	A	社会、産業、企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出すことができる	
	B	社会、産業、企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出すことがある程度はできる	
	C	社会、産業、企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出すことが余りできない	
	F	社会、産業、企業が持つ経営上のあるいは社会的な課題を見出すことが全くできない	
	4		
	A+		
	A		
	B		
	C		
	F		
	5		
	A+		
	A		
	B		

	C			
	F			
履修上の注意	講義をよく聴き、不明な点は遠慮なく質問すること 講義へ積極的に参加し、ディスカッション全体へ積極的に貢献すること 講義内容は、学生の理解度等に応じて、変更することがある			
教科書・教材				
基本方針	必須の教科書に加え、適宜講義内で重要な文献について紹介する			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	よくわかる経営管理	ミネルヴァ書房	2011年11月	
推薦	経営戦略入門	日本経済新聞出版	2011年5月	
参考文献	講義内で適宜紹介する			
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				
ディプロマポリシー（大分類）				対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力			◎
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル			
D3	(1) の能力を起点に (2) を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル			◎
D4	(3) で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル			○
D5	データ社会にあって (1) ～ (4) の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル			
成績評価方法	レポートと講義への貢献度等を総合的に評価する 評価割合はレポート（60%）/講義への貢献度（40%）			
試験・レポート等に対するフィードバック	講義内でポイントを示し解説する			
授業時間外の事前事後学修				
	内容			学習時間
事前学習	課題をまとめる			2.5 h
事後学修	講義内容ならびに課題のフィードバックを踏まえ改めて自身でまとめることで次回の講義の事前学習にもなる			2.5 h
授業計画				
1	経営学とは、経営管理論とは（イントロ） ー 情報社会の進展にともない、近時においては、DX或いはエビデンス・ベースのデータドリブン経営が、既存の経営戦略論（事業戦略・企業戦略等）・経営組織論に如何なる影響を与えているかを事例とともに考える			
2	経営戦略とは（経営戦略論の基礎①） ー 戦略計画、戦略の階層性等経営戦略の基礎的な概念を理解する			
3	経営戦略とは（経営戦略論の基礎②） ー コア・コンピタンス、創発的戦略等の基礎的な概念を理解する ー 「気合と直感」による新商品・ビジネスモデル転換から、ビックデータ活用、データサイエンスの経営への組み込みによる、新しいサステナブル経営への転換を事例とともに考える			

4	事業戦略① －SWOT分析、ポジショニング分析、ファイブフォース分析、RBV（Resource Based Value）等基礎的分析フレームワークを理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
5	事業戦略② －競争戦略の基本型（コスト・リーダーシップ、差別化戦略等）を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
6	企業戦略① －企業ドメイン、PPM（Product Portfolio Management）等企業全体戦略の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
7	企業戦略② －垂直統合、オープン化、戦略的提携等企業全体戦略の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
8	マーケティング論 －消費者行動、CRM（Customer Relationship Management）等マーケティング論の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する －従前のマーケティング論が、EC、ビックデータ、顧客購買分析・消費者行動等々をデータサイエンスの活用により如何に変容しているかを、事例とともに理解する。
9	製品開発論 －製品アーキテクチャー、製品開発組織の構造等製品開発論の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する －不確実性の高い商品開発をデータサイエンス等の活用によりその上市までの可能性を引き上げるか、また、リアルオプション的な意思決定等を組み合わせた最近期の事例についても考える。
10	イノベーション論 －イノベーションのジレンマ、オープン・イノベーション等の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
11	経営組織論の基礎 －テイラーの科学的管理法、管理過程論、官僚制、組織学習等の経営組織論の基礎的なフレームワークを理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
12	組織論①（マクロ） －コンティンジェンシー理論、資源依存理論、取引コスト理論等マクロ組織論の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する
13	組織論②（ミクロ） －人的資源アプローチ、動機付け等ミクロ組織論の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する －AIやデータサイエンスを駆使する新しい人事管理の潮流であるHRTecについても事例とともに考える
14	組織論③（ミクロ） －リーダーシップ論等のミクロ組織論の基礎的な概念を理解し、事例を通じて、社会上のあるいは経営上の課題を発見する －リーダーシップと経営倫理についても考える
SDGsとの関連性	
4.質の高い教育をみんなに 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に	